

続 市之川鉱山物語 田辺一郎さん

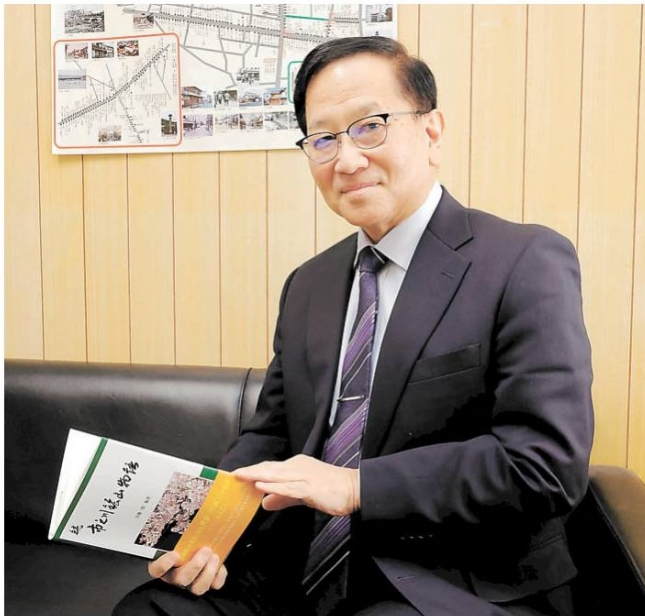
輝安鉱 美しさこそ真価

第39回愛媛出版文化賞（公益信託愛媛出版文化賞基金、愛媛新聞社主催）の受賞作品が決まった。今回は部門賞、奨励賞ともに3点が選ばれた。著書に込めた思いを作者に聞いた。

【研究・評論】部門賞

結晶鉱石「輝安（きあん）」

「鉱」の国内最大の産地であり、結晶の大きさ、美しさは世界一と称された市之川鉱山（西条市市之川、1957年閉山）。埼玉医科大学特任教授の田辺一郎さん（66）＝埼玉県毛呂山町＝は新たに見つかった資料を基に、経営の浮き沈みが激しかった明治期を中心とした鉱山の状況や出来事を記録した。鉱山の歴史や関連人物をまとめた「市之川鉱山物語」（2016年）の続編だ。前著の発刊後、明治中期



ごろの「収支表」などが見つけた。新資料を手がかりに海南新聞（愛媛新聞の前身）の記事も検証し、

当時の鉱山経営の実態などを明らかにした。続編では利益計算表や労働者の賃金、株主一覧などの資料を示し、鉱山の繁栄から衰退までの流れやその過程で生じた混乱を描いた。

明治期は鉱業の黄金時代だった。しかし輝安鉱の精製品が砲弾製造に用いられていたことから、同鉱山の業績は戦争や欧州の景気動向などに左右された。株主が派閥ごとに主導権を争うなど、人間関係の混

市之川鉱山の特徴のほか、明治期の鉱山経営の実態や混乱をまとめた新著を手にする田辺一郎さん＝西条市大町

乱も経営に暗い影を落とすた。

田辺さんは「世界一と称されながら、経営のまささが鉱山全体の衰退に影響した」としつつ「輝安鉱には多くの研究者や愛好家を引きつける美しさがあるのも事実で、それこそが真の価値だと思う」と語る。著作では明治期に外国人研究者が次々と訪れ、貴重な鉱山として世界に発信した様子にも焦点を当てた。

新居浜市の病院に医師として勤務していた時に輝安鉱を知り、1993年ごろから研究を続けてきた。約30年にわたる研究を振り返り「1人の力ではなく、いろんな人の協力があったからこそ。そういう意味で、単独著作とは思っていません」と語った。

現代図書刊、3520円。
（高橋圭太）